抄録

演題名：回リハ病棟患者に対して修正ＣＩ療法を実施し麻痺手の使用頻度向上を試みた
一例　～モニタリング方法を工夫して～

演者：御書正宏[1)]

1)医療法人社団　生和会　周南リハビリテーション病院　リハビリテーション部

本文

［はじめに］

回リハ病棟でのＣＩ療法の実践について，実施時間や患者負担が多くプロトコールに従って実施できている報告は少ない．今回ＡＤＬ練習と並行しながら短時間で可能な修正ＣＩ療法を工夫することで，短期間で麻痺手の改善が図れたためここに報告する，本報告に関して本人へ書面にて同意を得ている．

［症例紹介］

７０代男性，右利き．自宅にて独居生活．右上下肢の脱力を認め救急搬送，左アテローム血栓性脳梗塞を認め，第４０病日に当院回リハに入院．上肢機能はＦＭＡ上肢項目５３点，ＡＲＡＴ４１点．麻痺手の使用頻度はＭＡＬでＡＯＵ０．６点，ＱＯＭ０．６点と日常生活で麻痺手の使用頻度が低い状態．認知機能はMMＳＥ２９点，ＡＤＬはＦＩＭ７８点であった．

［介入方法］

先行研究を元に上肢に対する修正ＣＩ療法を実施．課題指向型練習 40 分，ＴＰ２０分を週７回８週間継続．ＴＰではＡＤＯＣ－Ｈペーパー版を用いて麻痺手の目標を４～５項目決定し，行動契約を口頭で行った．モニタリング時に麻痺手の使用場面を自室で確認できるようシートを作成．症例と毎日使用状況の確認と記録を実施した．

［結果と考察］

第１００病日後の上肢機能はＦＭＡ上肢項目６５点，ＡＲＡＴ５２点まで改善．ＭＡＬはＡＯＵ２．１点，ＱＯＭ２．６点と先行研究で示されたＭＣＩＤを上回る改善となった．モニタリング等を工夫した修正ＣＩ療法は回リハで短期間の麻痺手の改善に有効と考える．